

## カービュー マーケットウォッチ (2011年5月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

### 乗用車全体で前年同月比51.5%と厳しい状況

11年 4月順位	11年 3月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	フィット	ホンダ	8,574
2	(2)	→	プリウス	トヨタ	4,876
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	4,644
4	(5)	↑	フリード	ホンダ	3,761
5	(6)	↑	カローラ	トヨタ	3,268
6	(9)	↑	ステップワゴン	ホンダ	3,082
7	(7)	→	マーチ	日産	2,770
8	(8)	→	デミオ	マツダ	2,591
9	(4)	↓	セレナ	日産	2,349
10	(10)	→	パッソ	トヨタ	2,319
11	(13)	↑	ノート	日産	2,217
12	(15)	↑	スイフト	スズキ	1,933
13	(12)	↓	ヴォクシー	トヨタ	1,906
14	(17)	↑	ソリオ	スズキ	1,810
15	(11)	↓	ラクティス	トヨタ	1,795
16	(18)	↑	キューブ	日産	1,794
17	(14)	↓	ウィッシュ	トヨタ	1,496
18	(24)	↑	ティーダ	日産	1,414
19	(16)	↓	ノア	トヨタ	1,361
20	-	↑	インプレッサ	スバル	1,204

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

### ■乗用車全体で前年同月比 51.5%と厳しい状況！

#### 軽を除く登録車（白／緑ナンバー車）は過去最大の落ち込みに

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した4月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は15万3530台で、前年同月比51.5%と8カ月連続のマイナス。特に白／緑ナンバーの登録車（3／5ナンバー乗用車と貨物車、バスの合計）は10万8824台で、4月単月として過去最低の台数だっただけでなく、前年同月比51.0%減と過去最大のマイナス幅となってしまった。軽自動車も貨物車を含めた全体で7万6849台、前年同月比41.1%減と、4月単月のマイナス幅としては過去最低の水準だった。こうした大幅減は景気低迷というより、明らかに新車の供給不足が最大の要因。各社の生産工場は4月以降、順次生産を再開しているが、操業率は通常の5割程度にとどまっており、フル稼働状態になるのは、早くても秋以降の見通し。被災地の復興が順調に進めば、需要が掘り起こされることになるが、今後の予測は難しいと言わざるを得ないだろう。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は8万4381台で、前年同月比は44.5%。メーカーブランド合計では、「ソリオ」が好調なスズキ以外は前年を下回り、トヨタが3万1688台で、前年同月比30.3%、ホンダも1万8811台、前年同月比51.5%と大きく落ち込んでいる。月間ランキングでは「ホンダ フィット」が8574台で2カ月連続のトップとなったが、フィットシリーズのほぼ半数を占めていた「フィットハイブリッド」が2割程度にとどまり、4876台、前年同月比18.4%と8割強も落ち込んだ2位の「トヨタ プリウス」とともに、工場の操業停止の影響をまろに受けた形だ。逆にタイで生産され、日本に輸入されている「日産 マーチ」は2770台、前年同月比102.9%と堅調。新車の供給不足が解消されれば、売れ行きが回復基調になるのも早いかもしれない。

軽自動車の乗用車部門は5万6402台、前年同月比57.6%と7カ月連続で前年を下回った。車名別では「スズキ ワゴンR」が7919台で、2カ月連続トップとなったが、前年同月比は51.4%と落ち込んでいる。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでも、1万2406台、前年同月比121.6%とプラスに転じた（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では1万5514台、前年同月比145.4%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が2970台で4カ月連続のトップで、2位はBMW（ミニを除く）が2260台でワンランクアップ、メルセデス・ベンツは1755台で3位だった。4位アウディ1244台、5位ミニ1181台、6位ボルボ553台、7位フィアット380台、8位プジョー320台まで、前年を上回る好調な売れ行きで、VWとメルセデスを除き、2ケタ増となっている。

## ■ココも気になる！その1

プリウスαを皮切りに新車投入が活発化？

東日本大震災の影響による販売車両の不足などで、一気に落ち込んだ新車販売市場だが、各メーカーの生産工場が操業を再開し、まだまだ先行きの不透明感が漂うものの復調の兆しも見え始めている。というのもトヨタが投入を延期していたプリウスベースのワゴン&ミニバンバージョン、「プリウスα」を5月13日に発売したのだ。すでに画像などが公開されていたこともあるが、事前受注が月間販売目標3000台の8倍強となる2万5000台に達するなど、好調な出足。特にトヨタ初のリチウムイオン電池搭載モデル（7人乗り3列シート車）の一部はすでに納車が来年4月以降になってしまうなど、ベースとなった「プリウス」並みの人気となっている。ただ部品調達が不安定になっているものはなく、6月までには月間3000台という当初の生産水準になるという。また同じく販売が延期されていた「ホンダ フィットシャトル」も5月中には発売される見通しで、またしてもトヨタ&ホンダのハイブリッド車が市場を牽引しそうな勢いだ。

このほか、5月24日にスバルの軽乗用車、「ステラ」がフルモデルチェンジの予定。噂通り、「ダイハツ ムーヴ」のOEM（相手先ブランド生産）モデルになりそうだが、ムーヴの売れ行きも上々だから、軽市場の起爆剤になりそうだ。また先日の上海モーターショーに登場した「日産 ティーダ」や「スバル インプレッサ XV」、ニューヨーク国際自動車ショーで公開された「スバル インプレッサ（4ドア&5ドア）」、さらには10・15走行モード燃費より厳しいJC08モードでリッター30kmを達成したと言われるダイハツ イースなども、当初の予定通り、秋以降に投入されるのは確実といわれている。

夏以降、各社とも12月に開催される東京モーターショーに向け、ニューモデルによる需要喚起を狙っているが、工場の操業停止で遅れていたマイナーチェンジも順次、実施されるはず。日本の景気を刺激する魅力的なニューモデルを期待したい。

## ■ココも気になる！その2

堅調な売れ行きとなった輸入車市場に注目

3月こそ物流網の混乱で前年割れとなったが、4月は海外メーカー製輸入乗用車全体でもプラスに転じ、1～4月累計では5万7691台、前年同期比105.3%と堅調に推移している輸入乗用車市場。昨年も18万255台（マーチなど日本メーカー製輸入乗用車除く）、前年比113.3%と好調だったが、JAIA（日本自動車輸入組合）によると、「201万～300万円以下」と「601万～800万円」の2つの価格帯の伸び率が著しいことがわかった。

「201万～300万円以下」では「VW ゴルフ」や「ポロ」、「BMW ミニ」などを中心に7万2507台（前年比35.6%増）、「601万～800万円」は「メルセデス・ベンツ Eクラス」や「BMW 5シリーズ」などで1万7901台（同30.5%増）と3割超の伸び率となっている。これはVW、メルセデス・ベンツ、BMW、アウディ、ミニといったシェア上位ブランドに、エコカー減税対象モデルが投入（昨年末時点で39モデル）されたことが、販売増の要因といえる

だろう。

今年の1～3月の販売台数を見ても、1位ゴルフ 7656台（前年同期比 89.2%）、2位ミニ 2669台（同 107.0%）、3位 VW ポロ 2620台（同 100.7%）と、いずれも「201万～300万円以下」が中心価格となっているモデルで、メルセデス・ベンツ Eクラスは 2361台（同 78.3%）で5位、BMW 5シリーズも 2275台（同 233.8%）で6位と「601万～800万円」がメインのモデルが上位につけている。

今年は「アウディ A6」「A7」をはじめ、「シトロエン C4」や「アルファロメオ ジュリエッタ」などニューモデルも目白押しで、新車供給不足の不安を抱える国産車を尻目に、輸入車の販売台数が大きく伸びるかもしれない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 ([pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp))

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---